

---

## 編集後記

---

締め切り日にならないと頭が回転し始めない悪い癖は年々ひどくなり、広報委員としてなかなか duty が果たせず、世代交代をと思いながらつい今日までできてしまったことを申し訳なく思っています。私自身、むつかしい学術論文も、臨床研究報告や医療経済も、興味のあるなしにかかわらず、校正という仕事を通して熟読(?)せざるをえず、結果ずいぶんたくさん勉強させていただき、有難い役をいただいたと感謝しています。ありがとうございました。

久保委員長はじめ他の編集委員の先生方の高い企画力、編集能力と、出版社である三秀舎の皆様のお力で、この号も診療報酬改定その他、多分、会員の皆様が知りたいと思われること、知っておかねばならないこと、日常の臨床に役立つこと等々、読み応えのある、格調高い、「透析医会雑誌」に仕上がっていると自賛しています。「透析医のひとりごと」は書いていただきたい人がまだまだいらして、毎号懐かしく透析黎明期を思い出したり、次はだれが書いてくださるのかとわくわくで、透析医会ならではの企画だと楽しんでいます。別冊になって登場してくるのを待ち望んでいます。

最近この「日本透析医会雑誌」はどうしたら手に入るかとの質問をよく受けます。会員の雑誌ですから会員にならなければ手に入らないのは当たり前ですが、例えば、わたくしの地元の兵庫県のように、兵庫県透析医会(会員数268)は、会則によると、「日本透析医会の下部組織ではないが、日本透析医会と連携を密にし、行動する」としています。もちろん種々の情報は入りますし、会員に十分伝わりますので、一見下部組織のように見えますが、個々の会員には雑誌は手に入らないというのが現状です。会員であるようで会員でない(?)難しい関係です。すでに臨床透析医の必読書になってきているこの「日本透析医会雑誌」、望む方々の手に届く手立てはないものかと考える日々です。

広報委員 坂井 瑠実